２０１６年5月２日

２０１５年度 認定こども園 常磐大学幼稚園の学校関係者評価結果

○　下記において、２０１５年度 学校関係者評価委員会を開催。

１．目　　　的　　　よりよい教育・保育活動をめざし、教職員の自己評価結果を基に学校関係者評価委員からの意見と評価をいただき、２０１６年度の改善に努める。

２．日　　　時　　　２０１６年3月１７日（木）　１０：３０～１１：３０

３．場　　　所　　　常磐大学幼稚園 園長室

４．出　席　者

竹中　治利 委員	学校法人常磐大学 監査役 常磐短期大学幼児教育保育学科 名誉教授
Ａ委員	常磐大学幼稚園 保護者代表
Ｂ委員	常磐大学幼稚園 修了生保護者代表
Ｃ委員	常磐大学幼稚園 修了生保護者代表
中﨑　啓子 委員	常磐大学幼稚園 園長
小貫　東里 委員	常磐大学幼稚園 教頭
吉田　成利 委員	常磐大学幼稚園 事務長

５．報告・協議内容

（１）【別紙１】により、中﨑委員（園長）から２０１５年度の教育・保育活動について、園の方針や、重点的に取り組む目標・計画等について説明及び実施状況の報告がなされた。

（２）【別紙２】により、小貫委員（教頭）から２０１５年度の教職員による自己評価結果について説明及び報告がなされた。

〔２０１５年度 自己評価結果のまとめ〕

・　２０１５年４月から幼稚園型認定こども園としてスタートした。
教育時間後の預かり保育および２号認定児の保育では、２０１４年度から除々に預かり保育日を増大させ、保育担当者も２人体制で運用し、さらに１号認定児において保護者が就労している場合は可能な限り受け入れを行うことにより、子育て支援のさらなる充実を図った。

・　２０１６年度においては、本園の自然豊かな環境を生かした活動が当日に展開できるよ

う、ワーキンググループを立上げ、課題を掲げ園内研修を進めていかなければならないと考える。

- 幼･小連携のカリキュラムについては企画会で話し合いがもたれ、今までの活動に加え、さらに不足している部分の活動を取り入れていった。初めて水戸市立梅が丘小学校を参観できたことも、子どもたちには大きな安心感に繋がった。年長組は本来の指導計画に加え、小学校に向けた活動のプログラムと２本立てで進めていきたいと考える。

- 保護者からの教育相談については、様々な立場での発言を求め、冷静かつ温かく対応していきたい。

（３）学校関係者評価委員からの意見と評価

A委員	・ 娘が一度も幼稚園を休みたいと言わず登園できたのが何よりだった。 ・ 成長するにつれて自分に都合の悪いことは話さなくなったと思った頃、今年度、掲載頻度が多い幼稚園公式 facebook を見て情報を得られたため安心だった。 ・ 保育園に通っていた頃は、心情面で消化仕切れていない様子だったが、幼稚園では「好きなことができる」と満足している様子が伺えた。 ・ 教師と子どもの距離が近い。 ・ わくわくチャレンジのプログラムに参加して色々なことに興味がもてた。 ・ 泥んこになったり、洋服を汚してきたり、ダイナミックな活動が少なかったように思われる。きれいに遊びすぎている印象を受けた。
B委員	・ 小学校への引き継ぎの大事な時期に通園することができ、人間としての芯ができあがり、キラキラした思い出ができた。「行きたくない」ということもあったが、親としては安心して通わせられた。 ・ 認定こども園になり、働く保護者には預かり保育が優先など、色々な面で置いてきぼりになったような思いがして、「働かないと…」との思いに至ることがあった。
C委員	・ 配慮が行き届き、過去に比べ現在の方が様々な面で向上している。 ・ 先生方が保護者用駐車場を見廻りする際、声を掛けてくれるため、良いコミュニケーションがとれた。 ・ 学年間の交流も活発で好ましい。安心して通わせている。 ・ ２０１４年度から各クラスの「お世話係」が無くなり、保護者間のかかわりが希薄に感じられて残念だった。 ・ 「育児に役立つ勉教会」は役立てられる講話内容が多いのに対して、参加人数が少ないのも残念に思った。

竹中委員	・　スローガンを掲げて教職員全員が共通理解をもつことが大切。「明るく・元気」は子どもたちそれぞれの明るさがあるので、個に合わせた対応をする、そういう部分も考えていく。 ・　ＳＮＳの活用は大変好ましいことで、今後とも変わらず実践してもらいたい。 ・　認定こども園に移行したことによる幼稚園の財政状況が気になっていたが、財政がより健全化しており、安心している。 ・　３・４・５歳児の将来の脳発達の活発さを考え、４・５年先のことだけ見据えることにならないよう、それに繋がる保育活動ができているかどうか考えていく。途中で考えることをあきらめさせる保育になっていないか、常に確認を怠らない。２０歳・３０歳の経験で判断するのではなく、教師が常に考え工夫し、子どもたちにも工夫させることが大切である。

６．２０１６年度の課題と改善方策

・　お世話係を募らなかった経緯として、保護者間で行われる食事会（１学期に１回程度）の幹事、年度終わりの担任に対するプレゼントの準備等の仕事内容が主になっており、そのための係の仕事の適正はどうか、また係り選考に対しても、いろいろな立場・考えの保護者がいるという現実があるということで取りやめた。通園バスでの登降園の園児も多いため、保護者同士コミュ二ケーションを取り合うのは困難だと思われる。「煩わしい」と感じる方とそうでない方のバランスを取りながら、園の行事等でクラス間のかかわりが深められるような保育内容を考えていきたい。

・　本園の自然環境（土手の傾斜を生かした遊び、米づくり、野菜づくり、固定遊具と身近な物を組み合わせた創造的な遊び等）を生かした遊びの構築を進めていきたい。

・　「育児に役立つ勉教会」のおたよりは、２週間前に保護者に配布し、同時にホームページにも掲載をしている。また、前日には各担任から降園時に声をかけてもらい参加を呼びかけている。今後、上記に加えて園内掲示板に掲示およびホームページ掲載の講演内容を詳しく表記するなど、周知を徹底していきたい。

【別紙１】

２０１５年4月１日

２０１５年度 認定こども園 常磐大学幼稚園における学校評価について

認定こども園　常磐大学幼稚園
（自己評価・学校関係者評価委員会）

＜学校評価の目的＞

幼稚園において、幼児がよりよい教育活動を享受できるよう、学校運営の改善と発展をめざし、教育の水準の保証と向上を図ります。

学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき、学校及び設置者が学校運営の改善を図りながら、評価結果を広く保護者に公表していきます。

１．本園の目標

幼稚園型認定こども園としての本園では、子どもたちに適切な環境を与え、豊富な楽しい経験をとおして心身の発達を促していきます。「健康で明るい子」「よく考え、工夫する子」「みんなと仲よく遊べる子」「自分から進んで活動にうちこめる子」を目標として、心情、意欲、能力を育てることに努めながら、生きる力を育む保育を展開します。

２．２０１５年度　重点的に取り組む目標・計画

明るく元気な子どもがあふれる認定こども園常磐大学幼稚園として、質の高い学校教育と総合的な保育の支援を重視した保育と行事を進めていきます。具体的には、日々の保育や親子遠足・お泊り保育・運動会・発表会・なわとび大会などの各行事に応じて、子ども達の様子や発達の段階を把握し、特徴を捉えた行事の展開に計画的に取り組んでいきます。

また、安全面では避難訓練や防犯訓練による防災活動に加えて、子どもたちが生活のルールを守ることで得られる安全にも、目をむけて活動をしていきたいと考えます。

３．主な評価項目と取組目標

主な評価項目	取組目標
①　質の高い学校教育としての保育の向上	前年度の自己評価から見ても教育方針・目標を理解して全職員が努力をしています。 日常保育への工夫・改善を図りながらさらに努力をしていきたい。

②　総合的な保育の支援（保護者ニーズ・地域ニーズの考慮）	預かり保育（虹組）の時間と人数等についても配慮しながら、保育の支援について工夫・改善の努力をしていきたい。 相談対応についての課題については、さらに対応の工夫・配慮をしていきたい。
③　安全面への対応	防災用品の維持・点検を確実に行っていく。従来通りの避難訓練を防災・不審者対応等保護者参加を考慮して計画的に実施していきたい。
④　給食と食育活動	管理栄養士による安全・安心な手作り給食と健康維持のための食育活動についても工夫を図っていきたい。
⑤　地域の小学校との子ども・教職員の交流	「育ちと学びをつなぐカリキュラム」を作成し、就学にむけて各小学校と子どもたちとの交流や教職員の情報交換に努めたい。
⑥　資質向上のための研修の充実	園内研修を充実させながら、資質向上に努める。一人でも多くの出張の機会をもつことができるような工夫を図りたい。 出張者の研修報告会を積極的に実施する。
⑦　特色ある教育活動としての大学院・大学・短大との連携	子どもたちの実態を考慮しながら、「わくわくチャレンジ」の理科・体育・絵画・音楽等やハローイングリッシュの楽しい活動の展開に努める。 「育児に役立つ勉強会」や臨床心理士の相談助言等を保育に生かしていく。
⑧　保育等に関わる情報発信の強化	明るく元気な子どもがあふれる幼稚園としてのさまざまな活動を情報発信し、逞しく成長する子どもたちの姿の理解を深めていきたい。保護者との共有を深めていく。

４．学校関係者評価委員名簿

委員氏名	所属及び役職
竹中　治利 委員	学校法人常磐大学 監査役 常磐短期大学幼児教育保育学科 名誉教授
Ａ委員	常磐大学幼稚園 保護者代表
Ｂ委員	常磐大学幼稚園 修了生保護者代表
Ｃ委員	常磐大学幼稚園 修了生保護者代表
中﨑　啓子 委員	常磐大学幼稚園 園長
小貫　東里 委員	常磐大学幼稚園 教頭
吉田　成利 委員	常磐大学幼稚園 事務長

５．評価の実施に当たっての自己点検・評価活動

2015 年 4 月 1 日（水）	本年度の評価の課題について（担当者決定）
2015 年 6 月 20 日（土）	行事参観「親子で遊ぶ日」実施
2015 年 7 月 7 日（火）	年長組 保育参観実施・保護者会開催
2015 年 7 月 9 日（木）	年中組 保育参観実施・保護者会開催
2015 年 7 月 10 日（金）	年少組 保育参観実施・保護者会開催
2015 年 7 月 25 日（土）	行事参観「夏まつり」実施
2015 年 10 月 3 日（土）	行事参観「運動会」実施
2015 年 12 月 5 日（土）	行事参観「発表会」実施
2016 年 1 月 28 日（木）	年少組 自由参観実施
2016 年 1 月 29 日（金）	年中組 自由参観実施
2016 年 2 月 5 日（金）	年長組 自由参観実施
2016 年 3 月 3 日（木）	年中組 保護者会開催
2016 年 3 月 4 日（金）	年長組 保護者会開催
2016 年 3 月 7 日（月）	年少組 保護者会開催
2016 年 3 月上旬	本園教職員による自己評価実施
2016 年 3 月 17 日（木）	学校関係者評価委員会開催（評価実施）
2016 年 4～6 月	学校評価の取り纏め 評価結果の公表（本園ホームページ） 評価結果を設置者（理事長）へ報告

【別紙2】

2015年度 認定こども園 常磐大学幼稚園 自己評価結果

2016年3月17日

○自己評価
各設問に対してA～Dの段階で評価
A…目標が十分に達成されている。
B…目標がほぼ達成されている。
C…重要な点で成果が上がっていない。
D…全体として成果が上がっていない。

【評価項目】

1. 質の高い学校教育としての保育の向上

①教育理念

○園の教育方針

・園の教育方針を理解している	A

②保育の計画性

○教育課程

・園の教育課程を理解している	A
・教育課程をもとに指導計画をたてている	A

○指導計画

・指導計画は教育要領・教育課程・幼児の実態などをもとに考えて作成している	A
・指導計画は常に見直しを行っている	A

○月案・週日案

・教育課程をもとに幼児の実態に合わせて作成している	A
・自分なりに標記の仕方を工夫し課題をもった内容になるよう努力している	B

③保育の実践

○5領域

・健康・人間関係・環境・言葉・表現についてそれぞれ工夫して保育を実践している	A

○子どもとのかかわり

・子どもの心身の状況や変化を常に把握している	A
・子どもの話をよく聞き、常に子どもの気持ちを受け止められるよう気をつけている	A
・子どもの発達や性格に応じたかかわり方を実践している	B
・子どもの人権を尊重して保育にあたっている	A

○教師間の連携

・子どもについて常に教師同士で話し合い、クラス、学年を越えて情報交換する機会がある	A
・教師間で保育技術や保育方法の意見交換をする機会がある	A
・独断で行動せず、事前相談・事後報告をしている	A

○保育の記録・反省

・一人ひとりの子どもをよく観察するよう心がけている	A
・クラスの運営や子どもの生活または育ちを毎日記録している	B
・反省を踏まえ、次の日の保育に生かす工夫をしている	A

④学級運営

○保育室の管理

・保育室内の整理整頓を心がけ、掃除がいきとどいている	B
・子どもの動線を考え、安全に配慮した環境になっている	A

○事務処理

・出席簿、週日案等は毎日正確に記入している	A
・配布物は決められた期日に配布している	A
・つうしんはすぐに目を通し適切に対応している	A
・保護者からの提出物、現金など注意深く管理している	A

2. 特色ある教育活動としての大学院・大学・短大との連携

・短大・四大生のゼミ活動に対する積極的な参加協力をしている	B
・わくわくチャレンジ（理科・体育・絵画・音楽）や、ハローイングリッシュなどのプログラムを保育活動として有効的に取り入れている	A
・実習活動、インターンシップにおいて、受入れ体制の充実と指導力の強化に努めている	B

3. 給食と食育活動

旬の食材を使った給食や手作り弁当を和やかに食べられるような雰囲気づくりをする	B
食に対し興味や関心をもち、感謝をしながら無駄にせずいただく気持ちを養う	B

4. 地域の小学校の子ども・教職員の交流

・小学校の教育内容について理解しようとしている	B
・修了した子どもの情報を得るように努力している	A
・地域の小学校の行事や公開授業に積極的に参加し交流をもつ機会を得ようと努力している	A

5. 資質向上のための研修の充実

①研修・研究への意欲

・研修会に進んで参加する	A
・保育関連の専門書や専門雑誌を読んでいる	B
・研修会で習得したことを実際の保育に生かしている	A
・教材研究をしている	A

6. 総合的な保育の支援（保護者・地域ニーズの考慮）

①保育等に関わる情報発信の強化

・子どもの変化や出来事、日常の様子を出来る限り保護者に伝えている	A
・保護者からの依頼や質問、相談などには適切に対応している	B
・家庭との連携が不可欠であることを認識し、保護者との情報交換に努めている	A
・日々の保育活動を、ホームページやFacebookなどを活用し発信している	A

②協力と支援

・保護者からの意見、要望については安易に受けたり、断ったりせず、上司に報告・相談をしている	A
・保護者への支援が可能な部分については、上司・他の教職員の合意のもとで行っている	A
・保護者の協力が必要な場合は、上司と協力のあり方を協議の上で保護者に依頼している	A

③良識とモラル

・個々の子どもや保護者、家族の情報は口外していない	A
・保護者との接し方は平等になるよう心がけている	A
・保護者に対して丁寧語で話している	A
・保護者の言葉づかいにこだわらず話を誠実に聞いている	A
・すべての保護者に対し、親しみを込めた挨拶や会話を心がけている	A

④クレームの対処

・クレームに対して謙虚に話を聞いている	A
・保護者の意を理解し、その上で園の意向も理解してもらい、保護者の納得を得ることができる	B
・必ず、上司に相談・報告している	A

7. 安全面への対応・衛生管理

①園内の安全対策

・園内に危険な物、壊れた物はないか常に観察し、発見次第報告している	A
・園が行っている安全対策について理解している	A
・消火器、非常ブザーなどの位置を把握し、使い方を理解している	B

②飲食物や薬品の管理

・飲食物の保管には十分配慮している	A
・救急薬品、清掃用薬品の保管、取り扱いには十分配慮している	A

③事故やけがに対しての対応

・事故やけががあった時は迅速かつ適切に責任をもって対応し記録をしている	A
・事故やけがの状況や原因を把握し上司、保護者に報告している	A

④降園途中の安全対策

・通園バス添乗における安全対策・注意事項を理解し配慮している	A
・降園時の子どもを確実に保護者に手渡ししている	A

8. 子育て支援

・地域における保護者の実情や要望による子育て支援ニーズを把握している	A
・カウンセリングの基礎を理解し、保護者に対して相談対応などを行っている	B

9. 預かり保育

・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育事業の実施に協力している	A
・預かり保育事業を行うにあたり、体制整備に関して職員間で議論している	B

10. 期待される望ましい保育者像

①幼稚園教諭としての能力

・幼稚園教諭として専門知識や技能を身につけて実践に努めている	A
・子どもの性格や個性を把握するよう努め、コミュニケーションがとれる	A
・仕事の手順を考え、優先順位を見極め能率良く行っている	A
・リーダーシップを発揮し、魅力ある学年・クラス運営ができる	B

②良識とマナー

・保育時間外でも保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がけている	A
・その場に適した言動がとれるよう努めている	B
・服装・髪型・身だしなみなど、清潔感があるよう心がけている	A

③職務の遂行

・職員として誠実に職務に専念している	A
・職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの守秘事項は厳守している	A
・重要書類や個人情報にかかわる資料等は確実に保管し、園外に持ち出さない	A
・教材・教具の管理、点検に気を配っている	A

④組織の一員としてのあり方

・教職員全員でひとつのチームであることを意識している	A
・自分の意見と異なる結果になっても決定したことには快く協力実行している	A
・当番や担当などの仕事の分担は、積極的に責任をもって実行している	A